

林道 てくてく

第3回

足柄古道を歩く 南足柄市「定山林道」



峠には、未知の世界に入るときめきがあり、伝説や歴史のドラマがある。

県内における峠道の代表は、「箱根峠」を越える東海道、それ以前の「足柄峠」を越える東海道、いわゆる足柄古道、そして、県北の「小仏峠」を越える甲州街道である。

第3回目目の林道てくてくは、大雄山駅—足柄神社—矢倉沢関所跡—一定山林道—黒白林道—地藏堂とした。約3時間、9 kmの緩い上りのコースである。

「定山林道」は、「足柄古道」の一部と重っており、南足柄市が施工し、管理する1.8 kmの林道である。林道の距離は短いですが、前後に古道のウォークも入れて、古代のロマンや峠を超えた人々に思いをはせ、わずかに残る街道の面影や雰囲気を探りながら歩くことにした。

足柄峠(736m)を越える道は、鎌倉時代の中ごろまで都と東国を結ぶ東海道の難所として知られ、ヤマトタケルや筑紫に向かう防人、更級日記の作者や

頼朝も越えた道である。

峠道は、かつて坂と呼ばれ神が住むと恐れられた。万葉集にもその歌が載っている。

この道は、江戸時代に入っても甲州道として、富士参りに行く人々にも利用された。

小田原駅から、伊豆箱根鉄道大雄山線に乗り換えて20分ほどで「てくてく」の出発点である大雄山駅に着く。

この路線は、道了尊で知られる大雄山最乗寺への参詣鉄道として大正14年に開業した延長約10 kmの路線である。

駅前には、商店街や市役所もある南足柄市の中心地域で、字名は「関本」、それ以前は、「坂本」と呼ばれた。

大宝令により22匹の駅馬が置かれ、大道(当時は山陽道のみ)



矢倉岳と足柄峠方面

並みの扱いを受けた所で、その名の通り坂の下「坂本」である。

時代が下り、江戸と結ぶ矢倉沢往還と小田原からの甲州道の合流点の宿場として賑わった。

改札口を出て、まっすぐ市役所の前を進むと峠を超える県道に出る。緩やかな上りの道をしばらく歩き、駐在所の所で右手の細い道に入る。

いよいよ古道らしい道になる。

とはいっても、山道は地藏堂より上で、それまでは古道と思われる所を通る農道や林道をたどるしかない。

それでも山の形が違っているはずはなく、その気になれば古

道の雰囲気は十分である。

ほどなく足柄神社。江戸末期に建てられた総ケヤキ作りの社殿はなかなかのものである。

横の古道は、鉄砲馬場と呼ばれ、農耕馬による奉納競馬が行われていた。



足柄神社と古道

みかん畑の農道からは、足柄平野の展望が素晴らしい。

広域農道に出て、左手に歩き、標識に従い右手の農道をたどる。県道と合流し関場の集落に下る。

関場は、その名のとおり、江戸時代、矢倉沢関所が置かれた所である。旅籠も10数軒あった所で、家並に宿場の雰囲気がなくもない。

集落を後に県道を歩み進めると「家康陣場の跡」である。

秀吉の小田原攻めの時に家康が陣を張った所とのことである。

道々見える突き出た山は、矢倉岳(870m)。丹沢山地の中央部と同じようにマグマが上昇し、固まってできた石英閃緑岩からなる山である。約110万年前ということであるから、箱根火山より60万年も古い山。

陣場跡を過ぎると、定山林道の入口である。この林道は、平成3年から3ヶ年かけて古道に沿ってつくられた。林道のそばには、古道を復元すべく、歩道

が造られている。石積の上であったり、木道であったりと様々だが、色々工夫の跡が伺える。

県内には、ほかにこのような林道はない。歩道は、少々歩きにくい所もあるので林道と交互に歩くのもしかたがない。

林道より左手に広がる箱根外輪山の山々は、昔から周辺の村々の農業や生活に欠かせない入会林野として利用されてきた。

現在は、南足柄市外5市町組合所有で、その名残を残す。

足柄上郡史は「・・・横浜開港と同時に用材薪炭の需要激増して、専ら乱伐して植栽を怠りし為、殆ど林相の観るべきものなきに至れり・・・」と記す。

明治の末より植林が進められ、現在は足柄林業地として、本県を代表する人工林地帯である。



昨今、人工林が毛嫌いされているが、水源涵養等の公益的機能があり、再生可能な資源を活用するのは人間の知恵である。

定山林道は、県営黒白林道に突きあたり、左手に行けば、明神林道と名を変え、箱根外輪山の富士見峠の下を333mの金時隧道で抜け、箱根町仙石原へ。

また、途中明神林道の起点方向に行けば、平成22年に全国



定山林道と復元古道

植樹祭で天皇陛下が植樹される「丸太の森」に通じている。

ここ箱根外輪山の緩やかな森林地帯は林道が縦横に走り、林道密度が県内で一番高い地域となっている。

ここまで来ると、地藏堂地区はすぐそこである。その名の通り、県の指定文化財となっている木造地藏菩薩像を安置したお堂がある集落である。

帰りのバスの時間を見図りながら、名物のウドンを食べて帰るのも良い。

また、「夕日の滝」を見て帰るのもよい。足柄山の金太郎が産湯をつかったあの滝である。

箱根溶岩の先端と足柄層との接点に当たり、軟らかい足柄層が侵食されて滝となった。

体力と時間のある方は、峠を超えて静岡県小山市の「竹之下」まで歩き、御殿場線の足柄駅から帰るのもよい。古道の完全踏破である。地藏堂からは、休みを入れても4時間はかからない。上りがきついが石畳もあり、道は整備されている。

晴れていれば、峠の足柄城跡からの眺めは絶景で、富士山が裾野まで手に取るように見える。

(事務局 瀧澤)